

令和4年度 社会教育に関する事業実績

(資料1)

○担当部署の自己評価

()内は令和3年度の取り組み実績

●自己評価に基づく課題

No.	部署	事業名	対象者	事業の目標	事業の概要	令和4年度事業の取り組み実績	令和4年度事業の評価・課題
1	社会教育・文化財課	地域学校協働活動	一般	地域に開かれた学校づくり、学校を核とした地域づくりを推進する。	地域住民等と学校の情報共有を図るとともに、学校と家庭及び地域をつなげる取り組みを実施する。	地域学校協働活動推進員（コーディネーター）の配置：7名 実施校数：小学校6校・中学校2校 「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム兼コミュニティ・スクール連絡会の開催：令和4年11月25日 地域学校協働活動推進員協議会の開催：令和5年1月11日	○新たに1名の地域学校協働活動推進員を委嘱することができた。 ○地域学校協働活動推進員協議会を開催し、他校区（地区）での取り組みを共有するとともに、活動の更なる充実に向けた意見交換ができた。 ●地域学校協働活動推進員未配置の校区への配置の促進が課題である。
2	社会教育・文化財課	地域から考える学びの未来会議	市民、社会教育委員、学校運営協議会委員、学校支援コーディネーター等	「地域から考える学びの未来会議」を開催し、学校・家庭・地域・行政それぞれが子どもの成長に関わる当事者として、担い手として協働する新たな体制の構築をめざす。	丹波市の教育応援プロジェクトとして、コミュニティ・スクールを核としながら、丹波市の教育をみんなで考える新たな学びの場としての「地域から考える学びの未来会議」を開催する。	第2回学びの未来会議 実施日：令和4年5月28日 場所：氷上住民センター 参加者：40名（オンライン参加含む） 内容：第1部 全体会（話題提供） 第2部 ワークショップ（意見交換） 第3回学びの未来会議 実施日：令和4年10月1日 場所：春日住民センター 他 参加者：29名 内容：全体説明・ワークショップ（チームづくり・自然体験・ミニ量づくり・ICT体験）・意見交換	○大人の学びについて実践事例から意見交換を行い、市内での大人の学びに関する現状について共有できた。 ○大人のトライヤート題し、参加者に実体験を提供することで、大人の学びについて考えるきっかけを提供した。 ●地域や関係団体、地域住民など多様な主体が関わり、我が事化することが必要である。
3	社会教育・文化財課	丹波市社会教育関係団体補助金	社会教育活動団体	丹波市における社会教育の発展を図る。	社会教育の普及、向上又は奨励等にかかる公益的活動に対し、補助金を交付する。 補助金額：予算の範囲内	丹波市PTA連合会 補助金：260,000円(58,351円) 活動内容：丹波市PTAリーダー研修会の開催、青少年育成研修兼PTCA活動研修会の開催、兵庫県PTA中央大会への参加 等	○市内小中学生への1人1台のタブレット端末の導入に関連した内容のオンライン研修会を開催し、安心・安全なICT活用について学ぶ機会を提供した。 ●アフターコロナの状況に応じ、オンラインの活用や対面開催等、事業の開催方法の工夫を検討する必要がある。
4	社会教育・文化財課	歴史講座	一般	身近な地域の歴史文化に関心を持ち、その歴史的な価値を地域や市民が見つけ直す機会を設けられるようにする。	丹波市と神戸大学人文科学研究科が地域連携協定を結び、身近な地域の歴史文化を見直すきっかけづくりとなる講座を開催する。	一般市民を対象とした歴史講座を開催した。 講座6回（6回） ・青垣：7月30日 72人（28人） ・山南：9月11日 33人（34人） ・市島：10月29日 34人（30人） ・氷上：11月19日 33人（36人） ・柏原：2月4日 30人（34人） ・春日：2月12日 28人（36人） 合計：230人（198人）	○歴史講座を開催したことにより、身近な地域の歴史や文化を見直す機会とした取り組みができた。 ○新型コロナウイルス感染症対策で参加者が限られるため講座の動画配信を行ない、当日参加できない方も受講が可能となった。 ●若い世代が歴史文化に親しむ機会の創出が必要である。
5	社会教育・文化財課	考古学講座	一般	丹波市の歴史や文化財を周知し、地域の歴史を知る機会を設ける。	考古学から黒井城や岩尾城を知る場を提供する。	実施日：3月12日 会場：氷上回廊水切れフィールドミュージアム 演題：「瓦から考える黒井城と岩尾城」 参加者：30名	○考古学から見た黒井城、岩尾城に関する講座を開催し、城について周知することができた。 ●広報周知を行いさらに多くの参加者を募ることが必要である。
6	社会教育・文化財課	歴史民俗資料館の運営	一般	各資料館で市の歴史や文化財を紹介する役割を果たす。	市民に歴史や文化財を学べる施設として、各資料館を運営する。	柏原歴史民俗資料館 ・兵庫県立歴史博物館巡回展「ひょうご五国”歴史文化キャラバン” 会期：11月12日(土)～12月18日(日) 入館者数：465名 ・「中井権次と柏原藩」 会期：2月14日(火)～3月12日(日) 入館者数：347名 柏原藩陣屋跡 ・「丹波の高礼」 会期：3月18日(土)～4月2日(日) 入館者数：1,538名 植野記念美術館 ・「用と美～暮らしの中の文化財展」 会期：11月26日(土)～12月25日(日) 入館者数：451人	○企画展等の実施により歴史・文化財を紹介する役割を果たせた。 ○美術館との合同企画展を初めて開催し、美術館の来場者に文化財に触れる機会を設けることができた。 ●身近な歴史資料に触れる機会を設け、多くの来館者に地域の歴史を伝えることができる企画展の開催を検討する必要がある。
7	社会教育・文化財課	いきものふれあいの里運営事業	一般	市民の環境学習の場として継続して支援することを目指す。	人と自然の共生を目指し、丹波の自然と人々の生活の関わりについて学ぶ教育施設の運営と自然との共生を学ぶ講座・企画展を開催している。	自然体験学習会 12回(10回) 企画展 6回(6回) 出前事業 22回(17回) 施設見学等 27回(9回) その他イベント出展等 1回(3回) 利用人数 計 7,149人(6,356人)	○地域内動植物の保全活動や調査活動の住民への学習会の開催等、本施設が果たすべき役割を見据えた取り組みを行った。 ●他の社会教育施設との連携を深め、継続した学びの機会をつくる必要がある。

令和4年度 社会教育に関する事業実績

(資料1)

○担当部署の自己評価

()内は令和3年度の取り組み実績

●自己評価に基づく課題

No.	部署	事業名	対象者	事業の目標	事業の概要	令和4年度事業の取り組み実績	令和4年度事業の評価・課題
8	社会教育・文化財課	氷上回廊水分れフィールドミュージアムの運営	一般	氷上回廊で育まれてきた地域特有の自然の多様性、豊かな文化及び歴史を貴重な地域資源として次世代に継承していく取り組みを広げる。	氷上回廊の自然、歴史文化を次世代に継承する拠点施設として、氷上回廊をとりまく豊かな自然や文化などに関する情報を収集、保存及び展示し、それらの普及活動や教育活動を行うため、企画展やワークショップ等を開催している。	<ul style="list-style-type: none"> ■企画展「水分れの生きもの展」会期：4月24日(日)～5月22日(日) 入館者数：3,239名 「琉球列島～生物多様性の宝庫～」会期：6月22日(水)～9月25日(日) 入館者数：10,362名 「丹波 里山の恵み」会期：9月30日(金)～10月21日(金) 入館者数：4,643名 「植物が生み出す自然の色」会期：11月9日(水)～2月12日(日) 入館者数：5,594名 「ふるさと教育展示会」会期：2月15日(水)～3月12日(日) 入館者数：1,776名 ■ワークショップ等 21回 ■農業体験教室 6回 ■出前授業・出前講座 12回 総入館者数 35,157人 	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞・ホームページ・SNS等を活用した周知や、企画展やワークショップの開催等により、年間の来館者数の目標3万人を達成することができた。 ○企画展に関する内容について詳しく学びたい方には、他の社会教育施設へ案内する等、更に学びを深めてもらえるよう工夫した。 ●常設展示品等の更なる充実を図り、博物館としての学習機能を高める必要がある。
9	中央図書館	図書館管理運営事業	市民	市民の生涯学習を支援するために、地域の情報拠点として読書の推進や支援だけではなく、市民の生活や仕事、地域づくり等の各分野における課題解決も支援するために図書館機能を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども読書推進関係(子ども読書推進講座) ・社会体験活動(夏休み一日図書館員、トライやる・ウィーク受入等) ・ボランティアグループ活動支援 ・講座・催しもの(各館おはなし会、文学講座、ブックトーク等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども読書推進講座(1回講座) 参加者数 28名(20名) ・ブックスタート 月2回実施 コロナ感染防止のため保健師による実施(337セット配布) ・夏休み一日図書館員(7～8月) 参加者数(各館合計) 3名(11名) ・トライやる・ウィーク 受入れ者数 17名(17名) ・ミニトライやる・インターンシップ 受入れ者数 1名(0名) ・ピリオハバトル大会 観戦者数 10名(15名) ・文学講座(1回講座) 参加者数延べ 21名(2回講座 0名 コロナ感染拡大のため中止) ・各館おはなし会、ブックトーク 随時開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ感染防止を図るため、対策を取りながら実施した。 ●幅広い世代が図書館に親しむ多様な機会として、感染対策に留意しながら事業継続する必要がある。
10	中央図書館	子ども読書養成講座	市内在住小学4～6年	子どもたちの中で、読書活動のリーダーとして活躍してくれる子ども読書を養成する。	同世代の子どもたちへ本の紹介や読み聞かせ活動等ができる子ども読書を養成するために講座を開催。	<ul style="list-style-type: none"> ・全7回の講座を開催し、認定基準に達した者を子ども読書として認定した。 ・受講者数 10名(10名) ・認定者 10名(10名) 	<ul style="list-style-type: none"> ○全受講者10名を認定することができた。事業開始から延べ101名の子ども読書が誕生し、成果を上げている。また、子ども読書のおはなし会での活動機会を増加させることができた。 ●子ども読書として活動する機会を、図書館、読み聞かせボランティアグループが連携し充実することができたが、さらなる拡充が課題である。
11	中央図書館	市民との協働運営	一般	市民と協働した図書館運営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館サポーター養成講座を開催し、サポーターを要請する。(丹波市社会福祉協議会と共催) ・図書館サポーター登録者の更新を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館サポーター養成講座を2回開催した。 ・図書館サポーター登録者数 56名(60名)うち令和4年度新規登録者 7名(11名) 	<ul style="list-style-type: none"> ○サポーターを養成することで、図書館事業を市民と協働で行うことができた。 ●図書館サポーターとして登録していても活動していただく機会がないことがある。このことから新たな活動分野を追加したが、更に分野や実施日を検討する必要がある。
12	植野記念美術館	美術館管理運営事業	一般	多くの市民が、こころ豊かで生きがいのある生活を送り、感性豊かな子どもたちが育つことをめざして、優れた芸術文化に触れる機会を提供する。そのため、四季を通して、質の高い魅力ある展覧会を企画する。	<ul style="list-style-type: none"> ①郷土の現代日本画展 親子の系譜 ②きかんしゃトーマス展-ソド-島のなかまたちが教えてくれたこと- ③村田エミコ展 ひらいてみよう!木版画のとびら ④美人画開花 培広庵コレクション展 ⑤用と美 暮らしの中の文化財 ⑥日中国交正常化50周年記念 五岳・霊山展 	<ul style="list-style-type: none"> ①郷土の現代日本画展 親子の系譜 会期：4月9日～5月5日 入館者：907人 ②きかんしゃトーマス展-ソド-島のなかまたちが教えてくれたこと- 会期：5月14日～7月24日 入館者：8,623人 ③村田エミコ展 ひらいてみよう!木版画のとびら 会期：8月6日～9月4日 入館者：1,550人 ④美人画開花 培広庵コレクション展 会期：9月17日～11月6日 入館者：2,559人 ⑤用と美 暮らしの中の文化財 会期：11月26日～12月25日 入館者：451人 ⑥日中国交正常化50周年記念 五岳・霊山展 会期：1月14日～3月12日 入館者：1,017人 	<ul style="list-style-type: none"> ○各展覧会では、関連イベントや講演会、展示内容の工夫などを通して、作家の作品に対する思いや意図、作品の魅力を直接来館者に伝えることができた。 ○美術館の建物や展覧会の内容などの紹介ムービー(動画)を作成してYouTubeやホームページにアップし、美術館の周知とファン層の拡大に繋げるため情報発信に取り組みしています。 ●美術館は館蔵品を十分に整理しきれないため、館蔵品図録の作成や独自の企画展の実施など、企画会社に頼らない努力も必要である。

令和4年度 社会教育に関する事業実績

(資料1)

No.	部署	事業名	対象者	事業の目標	事業の概要	〇担当部署の自己評価 ●自己評価に基づく課題	
						() 内は令和3年度の取り組み実績	令和4年度事業の取り組み実績
13	恐竜課	化石発掘体験	一般	化石の発掘体験を通じて、地域(元気村かみくげ)への来客者を増やし、地域の魅力や、丹波市の魅力を知ってもらい、再来訪者(リピーター)数を増やすことを目的とする。	丹波電の化石が発見された篠山層群の石を用いて、化石発掘体験を行っている。	化石発見現場来訪者数47,982人/年(41,717人/年)	〇コロナ禍による規制が緩和されたこともあり、来訪者数の増加につながった。 ●内や近隣地域の来訪者・利用者増加につながる企画や仕組みが必要である。
14	恐竜課	ちーたんの館運営管理	一般	来館者に「丹波電化石工房ちーたんの館」に興味を持って頂く事で、工房の来館者の増加や丹波電を含む篠山層群の古生物の魅力を知り、勉強して貰うことを目的とする。	丹波電をはじめとする篠山層群から発見された古生物化石等を展示している。	丹波電化石工房ちーたんの館来館者数75,694人/年(57,856人/年)	〇コロナ禍による規制が緩和されたこともあり、来訪者数の増加につながった。 ●今後も来館者を増やすための企画や工夫が必要である。
15	恐竜課	丹波電活用事業(セミナー・ワークショップ事業)	一般	化石や地層に興味を持ってもらい学ぶ機会を設けるとともに、篠山層群について知ってもらう。	化石や地層に係るセミナー、ワークショップを開催し、体験しながら篠山層群化石等について学ぶ。	化石クリーニング、レプリカ作成、化石復元等の各セミナーの開催 9回、88人 恐竜復元等のワークショップの開催 28回、581人	〇コロナ禍での感染防止に配慮し、年間を通して参加人数を制限しての実施となったが、篠山層群の化石や地層について学ぶ機会や周知ができた。 ●募集人数に対し参加者が少なかったため、周知方法や企画・内容等について検討する。
16	学校教育課	たんばふるさと学	小学生 中学生 市民	地域住民の参画によるふるさと教育を展開することにより、小学生の地域への関心を高め、地域課題を解決する人材を育成する。	小学校に学校支援コーディネーターを配置し、ふるさと教育の計画や地域資源を活用した授業・体験学習を実施する。また、中学校で地域課題の発見と解決をめざす学習を展開する。	「たんばふるさと学」で学校の授業に携わった地域住民の人数：2071人(1453人) 昨年度に引き続きコロナ禍で計画通りに実施することが困難な時期があった。ただ、その中でも実施の時期・内容・方法を工夫することで、昨年度より多くのゲストティーチャーを招聘し、効果的に事業を継続することができた。	〇学校と学校支援コーディネーターが情報を共有することで地域と学校が連携して各学校で工夫して「たんばふるさと学」を充実させることができた。 ●学校と地域をつなぎ、学校を支える学校支援コーディネーターや地域ゲストティーチャーの人材育成を継続するとともに、持続可能な地域資源(校地の特色)を生かした学習展開を図る必要がある。
17	市民活動課	3市連携互近助サミット	自治協議会 役員	3市連携による地域づくり協議会の交流と市内自治協議会における地域づくり活動の推進を図る。	福知山市、朝来市、丹波市の地域づくり協議会における地域課題の解決を図る上で参考となる取り組み等についての研修会等を開催する。	3市連携まちづくり互近助サミット ・期日 2/11開催 ・会場 あさこ・ささゆりホール ・参加 福知山市、朝来市、丹波市の地域づくり協議会役員等53人(57人) ・内容 講演「持続可能な農村(むら)づくり～日常を鍛えるということ～」 事例報告：朝来市与布土地域グループ交流	〇令和4年度は「地域づくりにおける農」をテーマとして学び、地域の課題解決と資源活用の両視点から、持続可能な地域づくりを考える機会となった。 ●これまで各地域の好事例の取組紹介も行ってきたが、地域の持続に関する悩み事などを共有する会も必要である。
18	市民活動課	丹波市地域づくり交付金	自治協議会	概ね小学校区における地域課題の解決を図り、かつ、市民による主体的な連携と交流の地域づくりを推進する。	自治協議会が実施する地域づくり事業に対し、交付金を交付する。	・地域づくり交付金 25件 99,564,000円 (25件 94,912,000円) (広報等仕分・配布支援の地域選択事業を含む)	〇概ね小学校区における地域課題の解決を図り、かつ、市民による主体的な連携と交流の新たな地域づくりを進めた。 ●特別分の使途がハード整備に使用されている。
19	市民活動課	丹波市自治公民館等施設整備事業補助金	自治会	自治公民館活動の活性化を促進し、生涯学習や地域づくりの振興を図る。	自治会が実施する自治公民館等の改修等に係る経費を補助する。	自治公民館の新築及び改修 ・新築 0件(1件) ・改修 4件(3件) ・グラウンド整備 0件(1件)	〇自治会において、自治公民館の改修が実施され、施設の機能向上による自治会活動の活性化が促進された。 ●建築年数が古い自治公民館が多く、取り壊しや改築に大きな負担が生じる。
20	市民活動課	丹波市辺地自治公民館等施設整備事業補助金	自治会	自治公民館活動の活性化を促進し、生涯学習の振興を図る。	自治会が実施する自治公民館等の改修等に係る経費を補助する。	・公民館の新築、全部改築又は大規模改修 0件 0円 (1件 31,000,000円)	〇令和4年度は申請なし。
21	市民活動課	丹波市地域づくり活動拠点施設整備事業補助金	自治協議会	概ね小学校区における地域課題の解決を図り、かつ、市民による主体的な連携と交流の地域づくりを推進する。	自治協議会が実施する拠点施設の改修等に係る経費を補助する。	地域づくり活動拠点施設の改修 ・改修 2件(4件)	〇自治協議会において、活動拠点施設の改修が実施され、施設の機能向上による地域づくり活動の活性化が促進された。 ●建築年数が古い施設が多く、取り壊しや改築に大きな負担が生じる。
22	市民活動課	丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金	一般	市民の提案による自発的かつ自主的で公益的な活動により、地域の活性化や地域課題の解決を図る。	市民の提案による自発的かつ自主的な公益的活動に対し、審査を行い、補助金を交付する。(2/3補助)	補助金交付件数 ・提案補助金(上限300千円) 10事業(12事業) ・応援補助金(上限50千円) 4事業(1事業)	〇年度開始前に審査会を開催し交付団体を決定することで、各団体は4月1日から事業を進めることができた。 〇提案補助金は特色を生かした13団体から補助金交付申請があった。 〇コロナで中止していた活動報告会を実施し、情報共有や意見交換を行うことができた。

令和4年度 社会教育に関する事業実績

(資料1)

No.	部署	事業名	対象者	事業の目標	事業の概要	〇担当部署の自己評価 ()内は令和3年度の取り組み実績 ●自己評価に基づく課題	
						令和4年度事業の取り組み実績	令和4年度事業の評価・課題
23	市民活動課	生涯学習・市民活動団体情報発信	一般	市内外の生涯学習団体や市民活動団体、自治協議会の活動を紹介することで、新たに活動を始めようとする市民の増加をめざす。	生涯学習団体や市民団体、自治協議会の情報を収集し、市民プラザのホームページや情報誌で発信する。	登録団体の情報発信を行った。 ・市民プラザ登録団体108団体(78団体) ・情報誌の発行 年6回 ・市民プラザによる高齢者学級の紹介 12団体(12団体)	〇各種団体や自治協議会が独自でホームページを開設するのはハードルが高いため、情報発信の支援ができていない。 ●施設使用の目的のみの登録団体は情報量が少ないため紹介に至っていない。
24	市民活動課	まなびの里づくり協議会	協議会委員	生涯学習活動を提供する多様な主体による連携や協議を行い、学んだ成果を実践に生かす知識循環型生涯学習のまちづくりをめざす。	市生涯学習基本計画に基づく生涯学習の推進に関する協議や提言を行う。	まなびの里づくり協議会を開催した。 ・2回(1回) まなびの里づくり協議会小委員会を開催した。 ・1回(0回) ※兵庫県公民館大会への参加	〇「生涯学習を実践に生かす地域づくり」をテーマに、地域学校協働活動や、地域におけるまなびのキーマンについて、グループワーク等と通じて共有ができた。 〇小委員会を実施し、協議会内での意見のまとめと提言書骨子作成を開始した。
25	市民活動課	生涯学習に関するアンケート調査	一般	基本計画の基本理念を実現するための指標管理や市民の様々な学習活動の状況、学習成果を生かす取組状況を把握し、今後の事業展開に生かす。	市内の20歳以上1,000人無作為抽出により、まちづくり部の各担当業務における生涯学習活動調査を毎年実施している。	指標(H25は基準値) ・まなび人を増やそう H25…60.2 R4…62.3(63.0) ・まなび力を育てよう H25…30.7 R4…34.4(34.8) ・まなび里をつくらう H25…指標なし R4…44.1(41.1)	〇質問自体に「知識循環型生涯学習」や「市民活動」についての定義や市の取り組み姿勢について記述があり、関心を高める機会となっている。 ●地域性や年代による傾向などクロス集計ができていないため、細かい分析などが行っていない。
26	市民活動課	地域高齢者学級(丹波市生涯学習振興補助金)	高齢者	高齢期における生きがいづくりのための生涯学習活動の振興を促す。	高齢期における生きがいづくりのための生涯学習振興事業を展開する団体に対して、その運営等に要する経費の一部を交付するとともに、施設使用料の半額免除(高齢者団体)を行っている。	・5つの高齢者学級が趣味講座、サークル活動を中心に活動された。 ・新型コロナウイルス感染拡大に気を付けながら、それぞれで対策し活動を行った。 ・地域高齢者学級5団体 1,736,000円(1,603,000円)	〇各高齢者学級が主体性をもって企画し、各講座を運営できている。 ●学習成果をまちづくりに活かすという知識循環型生涯学習についての認識を深める必要がある。 ●各クラブの指導者や運営委員、参加者の確保が課題となっている。
27	市民活動課	TAMBAシニアカレッジ・地域高齢者学級合同募集チラシ作成	高齢者	高齢者を対象とした生涯学習活動団体を紹介し、受講者の拡大を図る。	TAMBAシニアカレッジと地域高齢者学級、合同の募集チラシを作成し、統一感を持たせる。また、チラシ作成が苦手な高齢者団体の事務的補助を行っている。	令和4年度は各高齢者学級が独自のチラシを作成しているため、合同チラシの作成はしていない。	〇各高齢者学級で独自のチラシ等を作成しているため、作成していない。 〇毎月の広報たんばにて「地域高齢者学級だより」を掲載し、各高齢者学級の活動の紹介を行っている。
28	市民活動課	TAMBAシニアカレッジ	高齢者	高齢者自らが主体的に学ぶ力を育み、知識や経験を地域活動に生かすことができる市民を増やす。	高齢期を生きがいを持って生き生きと過ごすため、生活必要課題の解決に向けた社会教育講座を実施する。	年間全10回の講座を実施した。(オープン講座5回 テーマ別講座5回) 【講座分野】 ・オープン(教養)講座5回(6回) ・受講申込数56人(104人) ・テーマ別講座5回(0回) ・受講申込数9人(0人) ・テーマ(生涯学習、健康、生きがい等)	〇令和4年度からオープン講座の講義型の学習だけではなく、少人数による話し合いをメインとした「テーマ別講座」を実施した。 〇テーマ別講座の申込・参加者数が少ない。
29	市民活動課	TAMBAシニアカレッジラジオ教養講座	高齢者	高齢者が、自宅に居ながら学ぶことができる。	たんばコミュニティFM805を活用し、高齢者を豊かに生きるための講座を放送する。	全5回(10回)のラジオ講座を開講 生きがい、地域づくり、歴史、高齢者学級、健康	〇新型コロナウイルスが感染拡大する中でも学び続ける新しいカタチとしてラジオ講座を開講した。
30	市民活動課	丹波市子ども会育成協議会	子ども会	子どもが地域で安心・安全に暮らし、一人ひとりがたくましく健やかに成長できるように魅力ある子ども会活動を支援する。	単位子ども会への支援を行うとともに、指導者育成、子ども会安全共済会事業、子ども会による子ども会助成事業を実施する。	・わくわくオセロ大会 29名参加 ・自主事業 中止 ・子ども会安全共済会 加入団体:129団体、3,082名 ・子ども会による子ども会助成事業 助成団体:5団体 150,000円	〇オセロ大会はコロナ禍での実施となり、人数制限を行って実施した。感染対策・消毒作業等保護者の協力を得て行うことができた。 ●丹波市子ども会育成協議会を存続していくために、子どもとの関わりをもってもらえる役員の確保が課題となっている。
31	市民活動課	丹波市社会教育関係団体補助金	一般	社会教育関係団体における社会教育の推進。	社会教育の発展を図るため、社会教育法第10条に基づく社会教育関係団体に交付する補助金。	丹波市子ども会育成協議会 100,000円(100,000円)	〇役員の選出に苦慮している。 ●単位子ども会役員の枠外からの役員の選出、指導者の養成が必要である。

令和4年度 社会教育に関する事業実績

(資料1)

○担当部署の自己評価

()内は令和3年度の取り組み実績 ●自己評価に基づく課題

No.	部署	事業名	対象者	事業の目標	事業の概要	令和4年度事業の取り組み実績	令和4年度事業の評価・課題
32	市民活動課	丹波市俳句協会	一般	丹波市の生んだ著名俳人を顕彰するとともに、青少年への俳句文化の振興と俳句文化の定着、また俳句を通じた言葉の交流を図る。	著名俳人の顕彰と俳句事業の開催。青少年への俳句文化の醸成を目的とした出張俳句教室を行う。 ・田ステ女俳句ラリー（5月） ・たんば青春俳句祭（11月） 青垣地域 ・出張俳句教室（市内小〜高校） ・協会主催俳句募集（2月）	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止していた田ステ女俳句ラリー、たんば青春俳句祭について、実施した。 ・田ステ女俳句ラリー 事前投句数 240句（316句） 俳句ラリー参加者数 61人（-） ・たんば青春俳句祭 事前投句数 6,148句（7,050句） 俳句ラリー参加者数 55人（-） ・出張俳句教室回数 62回（36回） ・協会主催俳句募集 投句数 331句（221句）	○新型コロナウイルスに十分配慮しながら予定事業について実施した。 ○出張俳句教室についても、多数の依頼があり、実施状況は回復傾向にある。 ○協会の活動を広報する会員向け会報誌の発刊を行った。
33	市民活動課	丹波市二十歳のつどい	新成人	成人を迎えられた門出を祝い、この成人式を契機に大人への自覚と大人としての言動に責任を持つとともに、社会的責任を果たす心構えを培い、豊かな人生を築き上げることをねらいに開催する。	例年、成人の日の前日に開催。 市が主催する第一部式典のほか、第二部では成人式実行委員会企画イベントを実施し、人材育成の視点にたつて支援している。	・令和5年丹波市二十歳のつどい〜丹（まごころ）を君に〜 ※2部開催 会場：丹波市立春日文化ホール 午前：氷上、青垣、市島 午後：柏原、春日、山南 令和5年1月8日（日） 参加者数：509名 実行委員：5名	○令和5年1月8日（日）には令和5年丹波市成人式を新型コロナウイルス感染拡大防止のため、午前午後の2部に分けて実施した。 ○例年会場として利用している丹波の森公苑ホールが耐震工事中であり、丹波市立春日文化ホールで実施した。 ○実行委員会中心に事業を企画、運営し、参加者と双方向参加型のプログラムを実施できた。 ○令和4年4月1日の民法改正に伴い、名称を「成人式」→「二十歳のつどい」に変更して実施した。
34	市民活動課	丹波青い鳥学級	視覚障がい者	視覚障がい者が、社会人としての幅広い教養や実用的な知識・技能等を習得するとともに共生の喜びを創造する場を提供する。	視覚障がい者のための社会教育事業として、県から委託を受け実施。実行委員会による運営。	丹波市が主担当事務局となって5回講座を実施した。 学級生15名（丹波市）	○学級生は、積極的に参加し意欲的に学ぶことができています。 ●学級生の高齢化が進んでおり、新たな学級生獲得が必要。 ●学級生にとって実用的な知識を習得できる講座が必要。
35	市民活動課	丹波くすの木学級	聴覚・言語障がい者	聴覚・言語障がい者が、社会人としての幅広い教養や実用的な知識・技能等を習得するとともに共生の喜びを創造する場を提供する。	聴覚・言語障がい者のための社会教育事業として、県から委託を受け実施。運営委員会による運営。	丹波篠山市が主担当事務局となって4回講座を実施した。 学級生23名（丹波市）	○体験講座などで学級生同士、ボランティアと交流しながら共に活動することの楽しさを実感できた。 ●学級生が固定化しており、新たな学級生の獲得、満足度や学習意欲を高められる魅力的な講座の実施が必要。
36	市民活動課	障がい者社会教育学級送迎	視覚障がい者・聴覚・言語障がい者	障がいのある人が、社会人としての幅広い教養や実用的な知識・技能等を習得するとともに共生の喜びを創造する場を提供するため、参加しやすい環境を整備する。	県委託事業である、青い鳥学級とくすの木学級生の学級参加を促すためのタクシー、バス送迎を実施する。	・青い鳥学級（学級生・ヘルパー含む） 延べ利用者数 42名（44名） ・くすの木学級（学級生） 延べ利用者数 6名（4名） ・市内会場又は集合場所までのタクシー送迎 ・市外会場までの公用バス運行	○青い鳥学級は、自宅から会場までのガイドヘルパーを含めた送迎を行い、学級に参加しやすい環境を整備した。 ○タクシー送迎は地元業者に依頼しており、送迎のたびにコミュニケーションがとれ、信頼関係を築くとともに交流のきっかけとなっている。 ●参加者が高齢化、固定化している。
37	市民活動課	自治公民館活動補助金	一般	自治公民館による生涯学習活動の活性化により、自治能力を高め、主体的に課題解決ができる組織づくりをめざすと同時に地域コミュニティの促進を図る。	①人権意識を高める学習活動事業、②地域コミュニティの形成のための事業を行う自治公民館に補助し、地域における生涯学習活動を活性化させる。 均等割40,000円＋戸数割250円	・211自治公民館が実施。（205自治公民館） 【主なテーマ】 ①人権意識を高める学習活動事業 ②地域コミュニティの形成のための事業 ・住民が集まらなくてもできる自治公民館活動を考え工夫されている自治公民館がみられた。	○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自治公民館活動が縮小・中止されたところもあった。 ○補助金の説明会は行わず、資料の送付とした。 ○自治公民館活動・人権住民学習合同研修会を2日に分けて実施した。 ※対象：自治公民館長、主事、人権推進員
38	市民活動課	住民センター管理	一般	住民センターを利用する市民を増やし、生涯学習活動の推進を図る。	各地域の生涯学習拠点施設として安全かつ適正に管理運営する。	・利用者数 188,562人（149,196人） ・施設使用料（住民センター使用料） 10,520,180円（10,341,749円） ・免除団体登録 83団体（75団体）	○新型コロナウイルス感染拡大により減少していた利用者数に回復傾向がみられた。 ●施設によって利用件数に差がある。 ●各施設とも老朽化が進んでおり、施設の改修、設備の更新が必要となっている。

令和4年度 社会教育に関する事業実績

(資料1)

○担当部署の自己評価

() 内は令和3年度の取り組み実績

●自己評価に基づく課題

No.	部署	事業名	対象者	事業の目標	事業の概要	令和4年度事業の取り組み実績	令和4年度事業の評価・課題
39	市民活動課	公共施設予約システム運用 自動券売機管理	一般	住民センターをはじめとした公共生涯学習施設利用者の利便性の向上を図る。	公共施設予約システムの安全な運用と自動券売機の適正な管理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> アクセス件数27,033件 (30,809件) WEB予約件数1,886件 (1,226件) 	<ul style="list-style-type: none"> ○セキュリティ強化や古いデータの削除、スポーツ施設の料金改定等に伴う改修を行い、適切な動作環境を整えた。 ●既存の公共施設予約システムが導入後15年経過しており、改修では対応できない課題も増えてきたため、新たなシステムへの更新が必要となっている。
40	市民活動課	丹波布伝承館事業	一般	丹波布技術保存会の組織体制の確立と、丹波布の技術を後世に継承していく。	丹波布の伝統文化の保存と後継者の育成のための伝承教室を開催。	<ul style="list-style-type: none"> 来館者数 16,996人 (14,923人) 丹波布長期伝承教室の開催 第13期生5名受講 (12期生4名) 短期伝承教室開催 5日間 (5日間) 創作展・企画展開催 2回 (2回) 糸紡ぎ体験・織体験等各種講座開催 参加者 94人 (61人) 	<ul style="list-style-type: none"> ○開館以来実施している長期教室は第13期を開講しており、技術の継承、文化の保存への継続的な取り組みができています。 ●新型コロナウイルス感染症による旅行自粛等により近年は来館者数は減少傾向だったが、令和4年度は回復傾向にあることから、一層の広報や企画展の創意工夫を行い、内外への丹波布の普及を図る。
41	市民活動課	市民活動支援センター運営	一般	生涯学習活動や地域づくり活動などにおける、市民が主体的に行う公益的な活動を総合的に支援する仕組みをつくり、拠点を整備することにより、今後の取り組みを活性化させることを目的とする。	市民の多様なニーズや複雑化する地域課題の解決に向けた公益的な活動を総合的に支援する拠点として、次の3つに取り組む。 1. 知識循環型生涯学習推進の拠点 2. 市民活動連携の拠点 3. 地域づくり事業支援の拠点	<p>NPO法人丹波ひとまち支援機構による指定管理施設とし、生涯学習活動や地域づくり活動の総合的な支援を行った。</p> <p>①市民活動団体・イベント情報発信 ・情報誌「tamtam」発行6回 ・チラシ配架、登録団体の特別展示 ・講師紹介、講師派遣 ・各種補助金情報収集、紹介 ・ポータルサイト、SNS、DM ・「ラジオ喫茶ここちか」第1・3土曜</p> <p>②各種相談対応及び専門的な支援会議 ・相談対応837件 ・地域支援 (アンケート実施、会議運営、地域づくり計画見直し、HP作成、地域支援者連絡会、重点支援 (ミライン) 等)</p> <p>③交流、マッチング、コーディネート ・団体紹介、講師紹介 ・サロン事業 (学びのおしゃべりサロン、若者サロン) ・「高校生が創る丹波の未来への架け橋プロジェクト」への支援 ・市の相談 (市政広聴会、議会車座ミーティング)</p> <p>④人材育成 ・ちいさの豆ちから講座開催6回</p> <p>⑤団体運営支援 ・情報発信、データ分析、講師紹介、団体・法人設立、運営、会計、労務、チラシ作成、事業企画、資金調達、オンライン活用)</p> <p>⑥政策提言 ・ハブコメミーティング9回</p> <p>⑦市民プラザ大交流会開催 ・各種団体出展、体験コーナー、ステージ発表、動画配信など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域支援については、地域への訪問を行い、地域の進み具合によって伴走しながら会議支援などを行っている。 ○自治協議会の活動や組織の見直しに係る地域支援に関する業務として、個別の自治協議会を決定し、個別支援 (重点支援) をスタートすることができた。 ○市民活動団体や生涯学習団体が参加する大交流会では、団体同士がつながることができている。また、参加団体が主体的に取り組むための事前打ち合わせを行うなどの仕掛けができています。 ○地域情報や団体情報、イベントなどを情報誌「tamtam」やSNS等を活用し、積極的な発信ができています。 ○ICTを活用した会議や講座の実施など、先駆的な取組を行っている。
42	文化・スポーツ課	小学校及び中学校の学校開放事業にかかる定期利用調整	市民	学校施設の円滑な利用を促進するための調整会議。	少年少女クラブなどの練習等定期的に利用する団体の利用調整。	<ul style="list-style-type: none"> 12月に開催 103団体 各6地域ごとに利用者と学校関係者と調整をする。 施設利用の諸注意も合わせて実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○各利用団体で調整をスムーズに行えた。 ○学校関係者とも利用団体と一緒に諸注意ができた。
43	文化・スポーツ課	スポーツ施設管理事業	一般	市民のスポーツレクリエーションの普及及び身体の健全な発展を促進するため施設を設置・管理を行う。	【管理施設】 大師の杜ホール、水上総合グラウンド、春日総合運動公園、春日体育センター、山南中央公園グラウンド、山南農業者等体育施設、B&G体育館・武道場、愛育館、スポーツピアいちじま、市島市民グラウンド、ミッ塚テニスコート	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数 117,026人 (114,658人) 施設使用料 (スポーツ施設使用料) 12,004,230円 (9,334,570円) (R5.4.28現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症の状況の中ではあるが、施設利用者、施設使用料ともに昨年より増加した。 ●各施設とも老朽化が進んでいることから、計画的な改修、修繕が必要である。
44	文化・スポーツ課	細見綾子生家利活用	一般	・細見綾子生家及び周辺土地建物の保全管理 ・見学者の受入対応及 ・地元や団体を巻き込んだ多様な利活用	27年度に寄附を受けた俳人細見綾子生家について、生家の遺を残しながら細見綾子氏等の顕彰するスペースや展示創作活動ができるスペースの整備を行うとともに利活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 俳人細見綾子生家の維持管理 利用者数 17件 219名 (13件 142名) 	<ul style="list-style-type: none"> ○見学施設として展示品の充実を図り、安定した維持管理を行った。 ○「関西文化の日」を実施し、無料開放により、施設のPRを行った。 ●寄附者との連携により、展示品の更なる充実を図る。 ●他部署や丹波市俳句協会などの団体と連携し、綾子生家を利用した催しを開催することにより、綾子生家の周知と利用促進を図る。

No.	部署	事業名	対象者	事業の目標	事業の概要	〇担当部署の自己評価 ●自己評価に基づく課題	
						()内は令和3年度の取り組み実績	令和4年度事業の取り組み実績
45	文化・スポーツ課	文化ホール管理	一般	安全かつ使いやすい舞台設備等が整った文化芸術推進の拠点施設として、市民の学習成果発表の場づくりをめざす。	丹波市立文化ホール(2ホール)を市の文化芸術推進拠点施設として管理運営する。	令和4年度事業の取り組み実績 ・機器設備の定期保守点検や、計画的な簡易修繕を実施し安定した施設管理を行った。 ・主な修繕内容 ネット配信できるよう光回線工事を行った。 ホールロビーダウンライトのLED化 ・利用者数 春日文化H 8,585人(4,999人) ライフピア 9,086人(5,262人)	〇適切な保守点検による予防保全にため、施設の安全性の確保に努めた。 〇コロナ禍でも事業ができる環境づくりとして、ネット配信できるようホールを整備した。 ●経年とともに施設や設備が老朽化していくため、計画的な更新や予防修繕を行ない、安全を最優先で確保するとともに、経費の平準化を図り安定した維持管理に努める。
46	文化・スポーツ課	文化ホール自主事業	一般	・観客増員に向けて、アンケート分析、運営委員会の意見を踏まえ魅力ある事業や若い世代を対象とした事業の取り組みを引き続き展開する。 ・芸術文化を鑑賞しようとする市民意識の向上のため、アウトリーチ活動(ワークショップ等)を展開した芸術環境づくりをめざす。	・ホール事業に積極的に参画してもらう機会(鑑賞、事業への参加、オペレーター登録)をつくることで、舞台芸術に関心のある市民層を増やし、舞台芸術に対する意識を高める。 ・ホール事業を通して、地域づくりを進める。 ・小中学生に舞台芸術鑑賞の機会を与えることで、情操や鑑賞マナーを養う。	令和4年度事業の取り組み実績 ・若年層をターゲットにした鑑賞型事業や市内高校生による自主企画、バックステージツアー等の実施。 ・自主事業 9公演(8公演) ・自主事業来館者数 3,425人(2,296人) ・自主事業「ブラックボトムプラスバンド」市内中学生とのコラボのための事前ワークショップを実施 市島中学校 11名 氷上中学校 17名	〇コロナ禍ではあったが、感染予防対策を十分行い、事業が実施できた。 〇プロの演奏家による演奏指導(ワークショップ)も実施した。子供たちの記憶に残るような体験を提供し、文化芸術に対する意識を高めていく。 ●新聞やラジオ放送等を積極的に活用・タイアップする等、ファン・リピーターの増加に向けた営業・広報戦略が必要。 ●舞台芸術に触れる機会・環境を整備するために、アウトリーチや体験型ワークショップ等の事業展開による舞台芸術環境づくりが必要。
47	文化・スポーツ課	オペレーター養成講座	一般	オペレーター会員増に向けた講座の実施は、ゼロフォアの協力を得て毎年度実施し、魅力を感じる講座内容を研究・開催する。一般参加のバックステージ(舞台裏)ツアーの定期開催等、舞台裏を身近に体験できる環境を整備し、様々な方向から研究することで、講座の充実を図る。	円滑な文化ホール運営を行うため、オペレータークラブZEROIVの更なる組織拡充と人材育成を目指して実施する。	令和4年度事業の取り組み実績 ・文化芸術に触れる機会として文化芸術体験講座「はじめての一步」としてオペレーター養成講座を2回実施した。 1回目 2名受講 2回目 2名受講 (R3: 3名受講。短期型4名受講。)	〇地域住民が文化芸術の担い手として取り組める機会を提供し、舞台芸術への関心の向上と、舞台技術オペレーターの人材育成を目指しオペレーター養成講座を実施した。 ●毎年養成講座を開催し、会員の増加と組織拡充に取り組んでいるが、現オペレーター会員の高齢化や会員総数が横ばい(減少)傾向であるため、講座内容の見直しやコース把握等の分析が必要。
48	文化・スポーツ課	芸術文化団体育成事業	会員	・各文化協会の活性化への取り組みを行うために、市文化協会役員会(会長会)において、組織の活性化と活動内容の充実等について協議し、芸術文化の振興と組織拡充を図る。 ・新たな組織づくりの検討を行い、旧町単位の文化協会が構成する現在の組織体系を見直し、種目別組織体系へ組み替える等、丹波市文化協会が市全体の芸術文化団体の窓口として機能する組織への位置付けを図る。 ・オペレーター養成講座により、ZEROIVの組織拡充を図る。	・丹波市文化協会として各文化協会の活動の振興発展を図るために、総合文化祭の充実を図る。 ・民謡のつどいを実施し、丹波市郷土民謡保存協会の活動の充実を図る。 ・丹波市立文化ホールオペレータークラブZEROIV会員の育成と拡充を図る。 ※上記3団体への補助金交付	令和4年度事業の取り組み実績 ・生涯学習推進団体補助金5,557千円 丹波市文化協会 4,400千円(2,493,024円) 丹波市郷土民謡保存協会 657千円(657千円) オペレータークラブZEROIV 500千円(500千円) ・丹波文化団体協議会負担金370千円(370千円) ・丹波市の伝統芸能に興味関心をもってもらい、後継者の育成につながるよう文化芸術講座「はじめての一步」で「伝統芸能講座」(踊り)を実施した。 講師:丹波市郷土民謡保存協会(春日) 参加者:10名	〇各団体会員の高齢化、会員数の減少が問題となっている。 〇コロナ禍でも感染対策を十分行いながら、「総合文化祭」「民謡のつどい」「各地域での文化祭や発表会」を実施した。 〇地域の行事が戻りつつあり、踊りの指導など依頼があれば、積極的に参加している。 ●会員数を増やすために、若年層による活動参加へのPR及び組織体系の見直し等の支援策が必要である。
49	文化・スポーツ課	アマチュアアーティスト育成支援事業(A2事業)	一般	参加団体や舞台スタッフの広域的なネットワークづくりをめざすとともに、一般参加の体験型ワークショップ等を実施することで、芸術環境づくりを進める。	地域で活躍するアマチュアアーティストとアマチュア舞台スタッフがプロの手を借りずに創りあげる市民参加型事業。	令和4年度事業の取り組み実績 ①出演数 ②入場者数 ・バンドフェスタ(ライブ配信有) ①15バンド、60名(20バンド67名) ②533名(194名:Youtube配信) ・ピアノフェスタ ①62名(62名)/②371名(261名) ・ダンスフェスタ ①9チーム127名(6チーム、80名)/②654名(296名) ・和太鼓フェスタ ①6チーム69名(3チーム、25名)/②444名(362名:Youtube配信)	〇コロナ禍でも感染防止対策を十分に行い、事業を実施できた。 ●今後、感染症が再発した場合でも、ネット配信ができるよう準備し、今後の事業継続・拡充につなげていく。

令和4年度 社会教育に関する事業実績

(資料1)

○担当部署の自己評価
●自己評価に基づく課題

()内は令和3年度の取り組み実績

No.	部署	事業名	対象者	事業の目標	事業の概要	令和4年度事業の取り組み実績	令和4年度事業の評価・課題
50	文化・スポーツ課	丹波市文化協会総合文化祭	一般	文化協会の活性化の取り組みを行うとともに、芸術文化の振興と組織拡充を図る。	丹波市文化協会として各文化協会の活動の振興発展を図るために、総合文化祭を実施する。	丹波市文化協会総合文化祭 7月9日～10日(令和3年度は中止) ①出品数(出演数)②鑑賞者数(入場者数) ・展示部門(書、絵手紙等)2日間 ①88点/②159人 (鑑賞者数には舞台部門入場者数が含まれる) ・舞台部門 7月10日のみ ①29団体/②143人	○芸術文化活動に取組まれている方が高齢化し、また若い世代の組織加入等が減少している。 ○コロナ禍でも感染防止対策をしながら地域単位の文化祭や地域の催物を実施するところが多かった。 ●会員数を増やすために、若年層による活動参加へのPR及び組織体系の見直し等の支援策が必要である。
51	文化・スポーツ課	丹波アートコンペティション(丹波市民美術展)	一般	・広く全国から創作意欲あふれる独創的な作品を募集・展示することにより、市民の文化芸術に対する関心深め文化活動を促進し、心豊かなまちづくりをめざす。	市民が芸術活動に取り組むための機会づくりと文化芸術の高揚を図る。	【第4回丹波アートコンペティション】 令和5年2月21日(火)～26日(日) 春日文化ホール・春日住民センター 出展数:254点(272点) 入選・入賞数:177点(188点) 来館者:1,090人(1,059人) (新人賞受賞者展) 令和5年2月21日(火)～26日(日) 植野記念美術館 来館者:206人(337人)	○出展数が昨年より少し減った。 ●市内参加者が増えるように、参加促進につながる取組が必要。 ●展覧会の来館者が増えるようにDMなどでPRする。
52	文化・スポーツ課	文化芸術サロン	市民	文化芸術に関わる人が集い、交流を深めていく、あるいは身近な場所で文化芸術に触れ、体験できるという場所「交流の場＝サロン」を構築し、身近で気軽に文化芸術に親しめる機会を提供することで、文化芸術の活性化を推進していく。	・子育てアートサロン:芸術に触れる機会が少ない子育て世代を対象に「親子で楽しむふれあいコンサート」を開催。 ・アートのスパイス:丹波アートコンペティションの関連事業として実施。丹波アートコンペティション審査員を講師に「写真講座」を開催。「書道講座」は中止。 ・文化芸術講座「はじめの一步」:初心者や子どもたちを対象に最初の一步を踏み出してもらえるような文化芸術講座を実施。	・子育てアートサロン ①令和5年3月2日(木)氷上地域 丹波市市民プラザ 会議室 講師 辻本明日香氏(バイオリン)、梅谷浩子氏(ピアノ、歌) 参加者 親子25組51名 ②令和5年3月10日(木)柏原地域 丹波の森公園 多目的ルーム 講師 山内千穂氏(打楽器) 井本裕美氏(ピアノ) 参加者 親子28組58名 ・文化芸術講座「はじめの一步」 ①伝統芸能講座(丹波市音頭・黒井踊り)8月7日(日) 春日文化ホール 講師 丹波市郷土民謡保存協会 参加者 10名 ②美術鑑賞講座(展示作品の木版画を見ながら技法を学ぶ)8月11日(木・祝) 植野記念美術館 講師 美術館学芸員 参加者 8名 ③おもしろ楽器講座(身近な材料を使って楽器を作る)8月13日(土) 春日住民センター大会議室 講師:足立晃一郎氏 参加者 8名 ④伝統工芸講座(丹波布を使ったマスコット作り)8月21日(日) 春日住民センター大会議室 講師:丹波布技術認定者 参加者 5名	○子育てアートサロンは3年目で、本年度も2回実施した。 ○子どもたちが、文化芸術に気軽に触れることができる機会として、「はじめの一步」と題した文化芸術体験講座を実施した。 また、丹波アートコンペティションの審査員を講師として、文化芸術講座「アートのスパイス」を実施し、文化芸術に触れる機会を創出することができた。 ●アンケート結果によると、参加された方は概ね好評であったが、参加者が少ないため、文化芸術講座を開催していることを広く市民に周知し、定着させていく必要がある。 ●小中学生を対象にしている講座もほとんどで、学校宛てに保護者宛てのメール配信を依頼しても、学校によって対応が異なり、すべての学校や子どもへ周知できないので、市広報、新聞折込、優先放送、SNS等を利用していく。

令和4年度 社会教育に関する事業実績

(資料1)

○担当部署の自己評価
 ()内は令和3年度の取り組み実績
 ●自己評価に基づく課題

No.	部署	事業名	対象者	事業の目標	事業の概要	令和4年度事業の取り組み実績	令和4年度事業の評価・課題
53						⑤コラーージュ 8月27日(土) 植野記念美術館 講師 美術館学芸員 参加者 1名 ⑥荅テラリウム 8月28日(日) 春日住民センター創作実習室 講師 Jumちゃん農園 岡田龍雄氏 参加者 6名 ⑦和太鼓 令和5年1月22日(日) 大師の杜ホール 講師 水ノ川太鼓のみなさん 参加者 8名 ⑧お箏 令和5年2月4日(土) 水上住民センター研修室 講師 竹内さおり氏 参加者 8名 ⑨落語 令和5年2月25日(土) ライフヒアいちしま大ホール 講師 笑福亭由瓶氏 参加者 5名 ⑩ジャズダンス・ヒップホップダンス 令和5年3月4日(土) 水上住民センター研修室 講師 colorful Boon 森本理紗氏 参加者 5名 ⑪クラシックバレエ 令和5年3月11日(土) 春日文化ホール 講師 バレエ・テラドロー 羽生五月氏 参加者 4名	
54						・アートのバイス ①書道 令和4年12月17日(土) 春日住民センター 大会議室 講師 浅田大遠氏 → 中止 ②写真 令和4年12月18日(日) 春日住民センター 大会議室 講師 川口和子氏 参加者 8名	
55	文化・スポーツ課	丹波市スポーツ推進委員会運営事業	市民	スポーツ基本法第32条の規定に基づき、丹波市スポーツ推進委員時規則を定め市が委嘱している。	・資質向上のための研修会・勉強会参加 ・ニュースポーツ(クォーターテニス)の普及に向けた巡回教室の開催 ・健康づくり推進に向けたラジオ体操講習会や体力測定会の開催 ・派遣事業(PTA親子活動・自治会等へのニュースポーツの指導)	・令和元年に新規にクォーターテニスサークルを結成することができた。令和2年度はコロナ禍により中止(自粛) ※(令和元年体験教室10回) ※R3サークル活動にて実施。 ・新体力測定会 コロナ禍により中止。 ・派遣事業(PTA親子活動・自治会等へのニュースポーツの指導) 4年度 ・クォーターテニス交流大会を実施。 ・新体力測定会30名(B&G海洋わが体育館)。 ・派遣事業(PTA親子活動・自治会等へのニュースポーツの指導) ・巡回ラジオ体操・みんなの体操会実施(丹波の森公園)	○令和元年に新たな自主事業を企画し、推進委員の活動を展開することができたが、R2はコロナ禍により中止したが、R3はサークル活動として実施できている。 R4は交流大会として実施した。 ○昨年中止したスポーツ行事も再開することができました。 ●各委員の交代回数に偏りがあるため、委員改選に伴い出役・取組みについて、各委員に委員の役割等、周知徹底した。
56	文化・スポーツ課	スポーツ協会運営事業	加盟団体	アマチュアスポーツ・少年少女スポーツの技術力及び指導力の向上を目的とする。	①市民スポーツ大会の開催 ②心肺蘇生等各種講習会の開催 ③スポーツ教室の開催補助	・市民スポーツ大会の開催 5月～翌年3月 ・熱中症研修会 計70名 ・加入団体に補助金 ・少年少女スポーツ団体に活動費の補助 ・スポーツ教室の開催 卓球、ソフトテニス(卓球、ソフトテニス)	○丹波市体育協会から丹波市スポーツ協会へと移行し、研修事業が共有化でき参加者の広がりが出ている。 ●コロナ禍の状況で、市民スポーツ大会が開催できなかった協会があり、各団体の会員減少により事業実施ができないケースが見受けられる。

令和4年度 社会教育に関する事業実績

(資料1)

○担当部署の自己評価

()内は令和3年度の取り組み実績

●自己評価に基づく課題

No.	部署	事業名	対象者	事業の目標	事業の概要	令和4年度事業の取り組み実績	令和4年度事業の評価・課題
57	文化・スポーツ課	丹波市スポーツ協会 市民スポーツ大会	市民	丹波市のスポーツ人口の拡大と社会体育の一層の推進を目的に開催。	【開催種目】 1 軟式野球、2 剣道、3 陸上競技、4 卓球、5 柔道、6 バレーボール、7 バスケットボール、8 バドミントン、9 少年野球、10 ヲウダンス、11 小学生バレーボール、12 グートボール、13 ヲウボール、14 ヲウボール、15 ヲウボール、16 ヲウボール、17 ヲウボール、18 ヲウボール、19 ヲウボール、20 ヲウボール、21 ヲウボール、22 ヲウボール、23 ヲウボール	・例年5月の開始式を3年振りに開催した。それぞれの各協会に広く市民に向けて開催されたが、コロナ禍により、大会が中止された協会もありました。協会の獲得や協会以外の参加者との交流も図る。	○スポーツ協会の専用ホームページを活用して、大会参加の募集等をするなどの取り組みを行っている。 ●市民スポーツ大会が各加入団体による主催のため、多くの市民が参加できるように周知を広げる。
58	文化・スポーツ課	丹波市クォーターテニス大会	市民	クォーターテニスによる健康増進を目的に協会を設立し、自立した普及推進体制を整える。	スポーツ推進委員会主催の市民を対象としたクォーターテニス大会。	クォーターテニス大会 12月 11チーム26名(柏住C)	○普及活動と併せて大会が定着化してきており、安定した参加者数となっていたが、R2、R3はコロナ禍により中止となっていたが、3年振りに実施することができた。 ●参加者が固定化してきており、新規参加者の増につながる新たな企画が必要である。
59	文化・スポーツ課	丹波市ラジオ体操指導者講習会・巡回指導	市民	市民の健康増進を図り、市の掲げる、健康寿命日本一に寄与する。	スポーツ推進委員会と共催のラジオ体操講習会を開催し、市民の健康づくりの意識高揚につなげる 【対象】 スポーツ推進委員、スポーツ指導者(体育協会、少年少女スポーツ、sc21、小中学校職員、体育振興会 他)	R4年度は2022巡回ラジオ体操・みんなの体操会を開催(丹波の森公苑)462名 上記の開催地となったため、ラジオ体操講習会は中止とした。 R3: 7月17日 55名(新井小) 7月18日 102名(東小) 講師 多胡肇氏	○健康づくりの意識向上を目的にラジオ体操講習会を開催している。 ●単独開催では、参加者が伸びないので、地域自治会やスポーツクラブ21と連携した開催手法を更に工夫する。
60	文化・スポーツ課	心肺蘇生講習会	スポーツ指導者	各スポーツ関係団体に受講を義務づけるように指導を行なっている。	スポーツ協会加入団体のスポーツ指導者や審判員を対象とした心肺蘇生講習会の開催	8月21日・22日・9月3日・5日の計5回で開催 男23名、女25名 計48名	○例年多くの参加者を得ている中、昨年同様年2回の実施を予定していたが、コロナ禍により定員人数の減少に伴い、開催数を増とし、計5回開催した。 ●協会間で取得者数のバラツキがあるため、偏りを無くすよう参加を促進する。
61	文化・スポーツ課	丹波市ふれあいスポーツの集い	市民	障がいのある人もない人もスポーツを通して人の交流を深め明るく豊かで生きがいのある生活を営むことを目的とする。	障がい者と健常者がニュースポーツ等を通して健康づくりと障がいの垣根を越え触れ合う機会を設ける。	・参加者 61名、スタッフ30名(令和2・3年度:中止) 【令和元年度実施内容】 ・参加者117名、スタッフ59名 ・参加団体 一般参加、市障がい者スポーツ推進委員、特別支援学校、小中学校特別支援教室、市内各障がい者施設、身体障がい者協議会、ボランティア協会、スポーツ推進委員、県障がい者スポーツ指導者協議会丹波支部、市社会福祉協議会、民生委員児童委員連合会	○規模の縮小、感染防止対策を講じた上で実施に向けて縮小した開催を検討した。 ●障がいのある・無いに関わらず、誰もが気軽に参加できること、コロナ禍の状況の中、開催に向け感染対策、規模の縮小、プログラムの検討を検討する必要がある。
62	文化・スポーツ課	丹波市三ツ塚マラソン大会	一般	マラソンを通して市民の健康増進並びに地域の活性化に寄与する。	マラソン大会の実施。 10km・5km・3km・ジョギング(3km) 補助 390万円	5月開催:延期(R3延期、R2中止) 【令和元年度実施内容】 ・参加者(1,847名) ・ゲストランナー1名招待 ・ハザーの開催 ・参加する子どもには、母親に渡すカーネーションのプレゼント。 ・コース上に花を飾り、花のコースを設定。	○新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催を延期とし、次年度開催に向け協議、検討が必要。 ●R2の参加者募集で、既に準備段階で多額の費用を要していたため、参加料の返金が出来なかった。 参加者の減は、大会運営に直結する課題になるので、リピーター、新規参加者の増につながる企画・広報を、実行委員会主体で実行していく必要がある。また、コロナ禍での開催をどのように対応するのか検討が必要。
63	文化・スポーツ課	全国高等学校女子硬式野球選手権大会	連盟加盟高校	丹波市における女子スポーツの推進並びに地域の活性化に寄与する。	全国の高等学校女子硬式野球部における全国大会。 補助 390万円	・6月3日にオンライン抽選会を開催 ・7月22日~7月30日 会場:スポーツピアいちじま 春日スタジアム 参加:49チーム 観客:延べ6,640名 ・決勝戦 8月2日(火) 阪神甲子園球場で開催	○コロナ禍により抽選会をオンラインにより開催。 ○決勝戦を阪神甲子園球場で開催し高校女子野球と丹波市の知名度向上に繋がった。 ●今後、大会規模が拡大するにつれて、会場へのアクセス環境向上や運営スタッフ増強に取り組む必要がある。 ●ネット中継等の発信ツールを、市のPRに効果的に結び付けていく取り組みが必要である。 ●駐車場等の確保も必要である。

令和4年度 社会教育に関する事業実績

(資料1)

No.	部署	事業名	対象者	事業の目標	事業の概要	〇担当部署の自己評価 ()内は令和3年度の取り組み実績 ●自己評価に基づく課題	
						令和4年度事業の取り組み実績	令和4年度事業の評価・課題
64	文化・スポーツ課	兵庫・丹波もみじの里ハーフマラソン大会	一般	マラソンを通して市民の健康増進並びに地域の活性化に寄与する。	マラソン大会の実施 ハーフ・5km・ジョギング(2.6km) 補助 210万円	R4：中止(令和2・3年度中止) 【令和元年度実施内容】 11月4日開催 参加者 (2,057名) ●地元野菜を始めとしたバザー開催。 ●中学生によるオープンクイイベントを実施。 ●もみじの観光もできる時期に開催 ●募集要項の表紙デザインを武庫川大学学生が考案。 ●地域の人に来場してもらえる取り組みとして、専用駐車場の確保と抽選会を実施。	〇コロナ禍によりR2、3、4年度の開催を中止。開催会場やコース上での3密回避は難しく、安全・安心な大会が開催できないこと、スタッフの不足等により中止することとなった。 ●参加者の減は、大会運営に直結する課題になるので、リピーター、新規参加者の増につながる企画・広報を、実行委員会主体で実行していく必要がある。 ●コロナ禍での来場者や運営関係者の安全確保、運営スタッフの高齢化や人員不足により運営が困難な状況であり、今後の検討が必要。
65	文化・スポーツ課	ちーたん駅伝大会	市民	多世代の市民が駅伝を通して健康づくりや競技力向上並びに参加者の親睦を図ることを目的に開催。	駅伝大会を実施 ①一般男子、②一般女子、③一般男女混合、④中学男子、⑤中学女子、⑥マスターズ(40才以上)⑦小学生男子、⑧小学生女子、⑨小学生男女混合、⑩ファミリー 補助 20万円	12月 参加者：72チーム 288名 (R2・3：中止) 【令和元年度実施内容】 参加 (82チーム) 参加者 (391名) 市島 愛育館周辺コース	〇R4は3年振りに開催を実施した。R3は、参加の安全確保、コロナの感染拡大防止の観点から、感染者の増加や屋外とはいえ、レース以外の場所での密を避けることはできない、大会運営のスタッフの確保も難しい等の理由により実行委員会において中止を決定した。
66	文化・スポーツ課	スポーツクラブ21ひょうご丹波市連絡協議会運営事業	SC21 会員	会員制による小学校校区ごとのスポーツクラブの交流と市民の健康づくり	丹波市交流大会の開催	全クラブ代表者会 25クラブ 4月12日開催 予算決算、年間事業。 地域代表者会 4回開催 交流大会などについて。	〇会員の減少等によるクラブの存続が厳しい状況のクラブが増加傾向にある。 ●クラブでも基金を使い切り、会費だけの運営が厳しいクラブが増え存続をどうするか県との調整が必要。
67	文化・スポーツ課	スポーツクラブ21ひょうご丹波市連絡協議会「各種丹波市交流大会」	SC21 会員	各クラブ間の交流と会員の健康づくりを目的に開催。	【丹波市(県)交流大会】 ①ゴルフ大会 ②ボウリング大会 ③囲碁大会	●グラウンド・ゴルフ大会 23チーム/138名(R3中止) ●ボウリング大会 11月19日開催 6チーム 15人 (4チーム 20人) 丹波地区(県)交流大会 ●グラウンドゴルフ大会 9月24日開催 9チーム 54人 (11チーム 66人) ●囲碁大会 10月22日開催 7チーム 21人 (5チーム 15人)	〇グラウンド・ゴルフ大会、囲碁大会などは、恒例行事として定着しており、コロナ禍により参加者は減少したが、感染防止対策を徹底し、大会が開催できクラブ間の交流を図ることができた。 ●クラブの交流につながる種目を検討し、交流大会の更なる実施を目指す。
68	人権啓発センター	人権啓発ラジオ番組の放送	一般	ラジオ放送を通じて市民の人権意識の高揚を図る。	あらゆる人権課題の解決や市民の人権意識の高揚に向けたラジオ放送を行う。	委託先：NPO法人たんばコミュニティネットワーク 期 間：5/9～2/25 内 容：人権啓発番組「あなたに寄り添う心ハーモニー」として、様々な人権課題やイベント情報、中学生人権作文を放送した。 回 数：月～土曜日、週6回、1回5分、年間30週放送	〇身近な学習ツールとして、様々な人権課題や市が実施する事業の情報を発信することができた。さらに、聞き逃した方も学習していただけるように、原稿を市ホームページに掲載した。 ●効果を把握するのが難しいが、番組自体の周知を幅広い媒体で行う必要がある。
69	人権啓発センター	人権講演会	一般	人権についての正しい理解と豊かな人権感覚を培い、人権文化が息づいた丹波市を目指す。	8月の「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間に合わせて人権講演会を開催する。	【丹波市人権講演会】 日 時 8月20日(土) 場 所 ライフピアいちじま 映画上映「あん」 講演会 講師 トリアン助川さん (明治学院大学教授、作家、歌手) 「感染症と人権 小説『あん』で伝えたかったこと」 参加者 180人	〇人権についての関心や理解を深める機会となった。参加者の97.4%が、「人権についての関心や理解が大変深まった・深まった」と回答。満足度も平均89.6%と高評価であった。 ●より多くの市民が参加され、人権に関する理解が深まるよう内容の充実を図る必要がある。
70	人権啓発センター	丹の里人権のつどい	一般	市内の関係機関が連携し、人権についての正しい理解と人権意識の高揚を図る。	12月の人権週間に合わせて、市、市教委、市同教、神戸地方方法務局柏原支局、人権擁護委員協議会等の関係団体との共催で開催する。	【丹の里人権のつどい】 日 時 12月4日(日) 場 所 春日文化ホール 内 容 ●中学生人権作文朗読 ●人権活動事例報告 ●トーク&コンサート「自分らしく生きる」由以さん(シンガーソングライター) 参加者 253人(前年度320人)	〇人権についての関心や理解を深める機会となった。参加者の81%が、「人権についての関心や理解が大変深まった・深まった」と回答。満足度も、中学生人権作文朗読：89.7%、活動事例：71.2%、トーク&コンサート：89.9%と、高評価であった。 ●より多くの市民が参加され、人権に関する理解が深まるよう内容の充実を図る必要がある。

令和4年度 社会教育に関する事業実績

(資料1)

No.	部署	事業名	対象者	事業の目標	事業の概要	〇担当部署の自己評価 ()内は令和3年度の取り組み実績	
						令和4年度事業の取り組み実績	令和4年度事業の評価・課題
71	人権啓発センター	地域人権教育事業	地域中学生	人権尊重社会の実現のため、地域の人権課題や生活課題を総合的かつ調和的に解決し、人権文化の高揚と共生の地域づくりを推進する。	各中学校区推進委員会等と委託契約を締結し、各中学校区において人権課題の解決に向けた人権教育を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 実施主体 各中学校の校区委員会 委託料 上限 各校区20万円 事業内容 ①中学生の現状から学校、家庭及び地域の人権課題について学ぶ学習会 ②広く住民を募って実施する地域づくり事業(講演会、展示会など) ③現地学習会 委託費 7中学校区合計 1,098,592円 (上限1,400,000円)	○概ね計画とおりの内容で事業実施ができ、地域・学校における人権意識の高揚につながった。また、事前の事業に関する担当者説明により適正な事業執行ができた。 ●適正な事業執行による事業精査が必要。
72	人権啓発センター	住民人権学習推進員研修会	推進員	住民人権学習推進員の役割について理解を促し、各自治会における住民人権学習を推進し、人権についての理解と人権課題の解決を図る。	各自治会の住民人権学習推進員を対象に研修会を実施する。	住民人権学習推進員を対象に市が取り組む人権のテーマや人権学習会の手法等の説明を行った。(自治公民館活動研修会と同開催。3回) ・日時 6月10日(金)夜、6月11日(土)午後・夜 ・内容 住民人権学習の進め方とDVD「夕焼け」の視聴 ・出席率 48.2%(192人/398人)	○令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により住民人権学習実施率54.8%であった。このため、令和4年度の研修会において、コロナ禍における人権学習活動の取組事例や様々な学習ツールの紹介など、「新しい生活様式」に対応し、前向きに地域で取組ができるように支援した。また、当日の様子を録画しHPに公開し、欠席者に対してフォローした。その結果、実施率が72.5%に回復した。 ●住民人権学習推進員の活動への支援を行い、地域における学習機会の充実を図る必要がある。
73	人権啓発センター	人権歴史講座	一般	第3次丹波市人権施策基本方針を踏まえ、同和問題に関する差別意識の解消を図る。	同和問題に対する正しい歴史認識を持つことにより、被差別地域に対する忌避意識の解消に繋げるため、人権歴史講座を開催する。	開催回数 3回(2回) ①講座 「部落女性と婦人水平社」 参加者33名(39名) 講師：関西大学委嘱研究員 宮前千雅子さん ②「オールロマンズ事件のもう一つの視点」 参加者31名(36名) 講師：希望の家地域福祉センター所長 前川武さん ③フィールドワーク 京都方面(清水寺、耳塚ほか) 人権ボランティアガイド富楽明美さん	○部落史の時系列的な理解をさらに深めるための講座として企画開催した。参加者の理解度97%と満足度のいく歴史講座となった。 ●効果的な講座となるよう、さらに内容を充実させる必要がある。
74	人権啓発センター	じんけんセミナー	一般	すべての人の人権を尊重する視点に立って、正しい知識の普及や啓発の推進を図る。	同和問題をはじめとする様々な人権問題についての認識を深めるために、じんけんセミナーを開催する。	開催回数 4回 ①「人権を守る支援とは？」 講師：伏田雅子さん(元中学校教師) 参加者30名 ②人権ゆかりの地探訪「水平社創立から今、そしてこれから」 講師：細田哲子さん(元小学校教師) 参加者56名 ③「差別の現状と部落差別解消推進法の意義」 講師：春川政信さん(元小中学校校長) 参加者34名 ④「学校にいけないうちの人権を考える」 講師：婦木巧さん(丹波市立教育支援センター長) 参加者38名	○同和問題、ひきこもり、子どもなどのテーマを取り上げ開催、参加者の理解度97%と高い評価であった。 ●効果的な講座となるよう、さらに内容を充実させる必要がある。
75	人権啓発センター	料理教室	一般	隣保館において同和問題ををはじめ、様々な人権問題の解決を基本に交流を行う中で、市民相互の理解へと繋げていく。	市民相互の学びや交流の場として料理教室を実施する。	開催回数 3回(3回) ①和菓子づくり教室 講師：お菓子司 藤屋 後藤紀行さん 参加者22名 ②そば打ち教室 講師：瀬田勝さん 参加者19名 ③ひな祭り料理教室 講師：いすみ会 参加者13名	○和菓子づくり教室には、外国人の参加もあり、料理を通して、参加者相互の交流が図れた。 ●効果的な教室が今後も実施されるよう、さらに内容を充実させる必要がある。
76	人権啓発センター	剪定教室	一般	隣保館において同和問題ををはじめ、様々な人権問題の解決を基本に交流を行う中で、市民相互の理解へと繋げていく。	市民相互の学びや交流の場として剪定教室を実施する。	開催回数 2回(2回) ①庭木の剪定教室 参加者20名(20名) ②果樹の剪定教室 参加者30名(20名)	○両教室共に定員に達する参加者があり、アンケートからも満足度の高い感想が寄せられた。 ●効果的な教室が今後も実施されるよう、さらに内容を充実させる必要がある。

令和4年度 社会教育に関する事業実績

(資料1)

No.	部署	事業名	対象者	事業の目標	事業の概要	〇担当部署の自己評価 ()内は令和3年度の取り組み実績 ●自己評価に基づく課題	
						令和4年度事業の取り組み実績	令和4年度事業の評価・課題
77	人権啓発センター	社会を明るくする運動作文エッセイ募集 (丹波市地区予選)	小中高生	次代を担う小・中学生に、日常の家庭生活、学校生活の中で体験したことを基に、犯罪・非行のない地域社会づくりや犯罪・非行などに関して考えたこと、感じたことを作文、エッセイに書くことを通じて、「社会を明るくする運動」について理解を深めてもらう。	社会を明るくする運動の取り組みの一環として、市内の小学5年生以上の児童、中学生を対象に犯罪・非行のない地域社会づくりや犯罪・非行をした人の立ち直りについて考えたことなどを題材にした作文、エッセイを募集する。	作文コンテスト ・小学生 7校 114作品 ・中学生 3校 3作品	〇小・中学生が作文を書くことを通じて、犯罪・非行のない地域社会づくりを考える機会づくりとなっている。 ●作文のテーマが小・中学生にとっては難しいものであるため、「社会を明るくする運動」の意義について周知する必要がある。
78	人権啓発センター	人権啓発パネル展	小中学生	人権に関する標語を作成することを通して、市の将来を担う子どもたちが様々な人権課題を考え、人権尊重の重要性や必要性について理解を深めるとともに、お互いの人権を尊重し合える社会の実現を目指す。	市内の小学5・6年生及び中学生を対象に人権に関する標語を募集し、優秀な作品について表彰を行う。また、応募作品について、商業施設等で展示を行う。	・展示点数 235点 丹波ゆめタウンのゆめ広場で展示した。「ジェンダーパネル展」同時開催。 (11月25日～12月2日)	〇作品展示を通して広く市民に人権啓発をする機会となっている。商業施設での展示により、多くの人の目にとまり関心を持っていただくことができた。 ●効果的な人権尊重意識の啓発が今後も実施されるよう、さらに内容を充実させる必要がある。
79	人権啓発センター	男女共同参画講演会	一般	男女の人権尊重や固定的性別役割分担意識の解消、女性の参画促進など男女共同参画に対する意識の定着を図る。	6月の「男女共同参画週間」に合わせ、男女共同参画講演会を開催する。	開催日：6月29日(水) 参加者：109人(73人) 講師：小川真知子さん (NPO法人SEAN理事長) 演題：「国民的アニメから考える男女共同参画」	〇男女共同参画に必要な視点を学び、固定観念などの気づきの機会となった。 ●男女共同参画についての理解と意識の定着に向け、より多くの市民が参加できる学習の機会と内容を検討する。
80	人権啓発センター	男女共同参画推進員研修会	一般	男女共同参画推進員の役割について理解を促し、各自治会における男女共同参画の推進を支援する。	各自治会の男女共同参画推進員を対象に研修会を実施する。	参加者：143人(82人) 出席率：35.5%(7.0%) 講師：栗木剛さん(mottoひょうご事務局長) テーマ：「男女共同参画って なに？」	〇男女共同参画の基本的な知識をわかりやすく学ぶことができる内容の研修会であり、推進員の理解が深まった。参加者の満足度平均78.7% ●出席率は上がったが、依然として低いことから、推進員の活動を後押しできる研修会が必要である。
81	人権啓発センター	男女共同参画推進事業補助金	一般	市民が自主的、積極的に男女共同参画にかかる学習事業や啓発事業を展開し、理解を深めようとする活動を支援し、地域における男女共同参画を推進する。	自治協議会、自治会、団体等が行う男女共同参画社会づくりを推進する学習活動、啓発活動に対し、補助金を交付する。 ・補助金 上限30,000円	補助件数：8団体(11団体) 補助総額：209,427円(204,027円)	〇補助金を活用し、新たに取組を行った団体等があり、地域等での自主的な学習・啓発活動を促すことができた。 ●地域で進める男女共同参画を支援するため、補助金の活用について、より積極的な周知が必要である。
82	人権啓発センター	男女共同参画基礎講座	一般	市民の男女共同参画に関する理科を深め、男女共同参画社会を築く。	男女共同参画に関する身近なテーマの講座を開催する。	講座開催回数：3回 講座テーマと参加者数 ・SDGs 7人 ・防災 7人 ・女性からだと健康 14人	〇様々なテーマで講座を開催したことで、参加者の幅が広がった。 ●さらに多くの人に参加してもらえようように、講座の周知を行う。
83	人権啓発センター	男性のための男女共同参画講座	一般(男性)	男性の男女共同参画社会への理解を深める。	参加対象者を男性限定にし、男性の立場を支援する講座を開催する。	開催日：2月18日(土) 講師：角井孝次(アンガーマネジメントファシリテーター) テーマ：男性のためのコミュニケーション講座 参加者：15人	〇男性が自分自身を振り返る機会と参加者同士の交流を図ることができた。 〇参加者の満足度が平均95%と高い満足度が得られた。 ●様々な視点から男女共同参画に対する理解を深める学びの場を増やしていく必要がある。
84	人権啓発センター	小中高生海外派遣に対する支援	小中高生	次世代を担う小中高生の国際感覚を豊かにし、国際化時代に対応する人材を育成する。	市内の国際交流団体等が実施する短期交換留学事業に参加する市内在住の小中高生及び引率者の渡航費の一部を丹波市国際交流協会を通じて助成する。	新型コロナウイルス感染症の影響により事業中止	〇新型コロナウイルス感染症の影響により事業中止となった。 ●新型コロナウイルス感染症の影響等を鑑みながら、引き続き、国際交流の機会を提供する必要がある。

令和5年度 社会教育関係団体補助金執行予定表

令和5年5月29日 社会教育委員の会議資料

令和5年度 担当課名	団体名 (会員数)	令和5年度 予算額	令和4年度 補助金額	令和4年度 収入決算額	補助の目的	主な活動内容
市民活動課	丹波市子ども会育成協議会 (令和4年度会員数:3,082人)	100,000	100,000	583,437 (うち自主財 源の割合: 83%)	活動費補助	<ul style="list-style-type: none"> ○オセロ大会 ・丹波市大会(7~8月頃開催) ・丹波ブロック大会(8月開催) ○自主事業の開催 ○県子連育成者大会他行事への参加 ○丹波市青少年育成事業への協力 ○理事会の開催
社会教育・文化財課	丹波市PTA連合会 (令和4年度会員数:4,152人)	260,000	260,000	1,187,060 (うち自主財 源の割合: 71%)	活動費補助	<ul style="list-style-type: none"> ○リーダー研修会 思春期の子との関り方等、メンタルヘルス に関する研修を予定 ○青少年育成研修会兼PTCA活動研修会 学校・家庭・地域が連携して子どもを育む 環境づくりに向けた研修を予定 ○正副会長(会計)常任委員会の開催 ○兵庫県PTA協議会行事への参加

※ 団体の活動状況を勘案のうえ、予算額の範囲内において、支出決定を行います。

※ 支出根拠要綱は、丹波市社会教育関係団体補助金交付要綱

丹波市社会教育委員名簿

任期 自 令和4年 4月 1日
至 令和6年 3月 31日

NO	氏 名	住 所	備 考
1	梅 垣 真 紀	柏原地域	
2	竹 安 今 日 子	柏原地域	
3	大 木 康 次	山南地域	
4	森 奥 和 代	山南地域	
5	梅 谷 浩 子	氷上地域	
6	荒 木 伸 雄	氷上地域	
7	長 久 博 志	氷上地域	
8	松 本 佳 則	氷上地域	
9	橋 本 千 英	青垣地域	
10	橋 本 崇 史	青垣地域	
11	木 寺 郁 代	市島地域	
12	高 橋 典 子	市島地域	
13	足 立 まゆみ	春日地域	
14	細 見 勝	春日地域	
15	山 内 順 子	春日地域	

丹波市教育委員会事務局職員名簿

令和5年4月1日

役 職	氏 名	備 考
教育部長	足 立 勲	
教育部次長兼学校教育課長	池 内 晃 二	
教育総務課長	足 立 安 司	
恐竜課長	田 原 弘 義	
社会教育・文化財課長	小 島 崇 史	
社会教育・文化財課 副課長兼文化財係長	足 立 渡	
社会教育・文化財課 社会教育係長	足 立 恵 一	
社会教育・文化財課 社会教育係	中 本 祐 史	

丹波市 まちづくり部職員名簿

令和5年4月1日

役 職	氏 名	備 考
まちづくり部長	福 井 誠	
まちづくり部次長兼文化・スポーツ課長	谷 水 仁	
市民活動課長	山 内 邦 彦	
人権啓発センター所長	堂 本 祥 子	

令和5年度 丹波市社会教育委員の会議の進め方について(案)

1. 今年度の活動方針

令和3年度に申し合わせした会議の進め方により、本年度社会教育計画の評価や次年度社会教育計画の立案が効果的になされるように意見具申を行う。また、下記のテーマを設定して研究調査を行う。

2. 今年度の活動内容

① 社会教育に関する諸計画の立案

(1)令和6年度社会教育事業計画の立案

② 教育委員会への意見具申

(1)令和4年度社会教育事業報告、令和5年度社会教育事業評価への意見

(2)令和5年度社会教育関係団体補助金支出への意見

(3)教育委員会から求められる案件への意見

③ 必要な研究調査

(1)令和5年度テーマ研究「社会教育における子どもとの学び」(仮)

(2)地域学校協働活動に関する現状調査(推進員へのヒアリング同行)

(3)地区社会教育委員協議会研修会などへの参加

④ その他

(1)まなびカフェ(オフMT)の開催について

3. 活動計画一覧

会議名	開催日時	会場	内容
第1回会議	5月29日(月) 14:00~	氷上住民センター	・令和4年度社会教育事業報告 ・令和5年度社会教育事業計画 ・社会教育関係団体補助金の支出 ・今年度研究テーマの検討
第2回会議	8月23日(水) PM	未定	・研究①「子どもを取り巻く現状について」 →子どもに関する現状把握と意見交換 →研究の方向性やまとめ方の協議
第3回会議	10月31日(火) PM	未定	・令和6年度社会教育事業計画の検討 ・研究②「市の子ども教育施策について」 →グループワークでの意見出しなど
第4回会議	2月中旬	未定	・令和6年度社会教育事業計画の確認 ・研究③「子どもとの学びについて」 →意見交換とまとめ ・次年度の会議について

※上記以外に、地区社会教育委員協議会研修会などへ出席。令和5・6年度は丹波篠山市で企画。

以上